

第3章 基本理念等

(1) 基本理念

サステナブルタウン高浜

豊かな自然と共に、多様な体験ができるパークライフ

(2) 緑の基本方針

1) 生活に潤いと安心をもたらす緑の保全（持続的な緑の保全）

選ばれる持続可能な町としていくためには、現在ある山、川、里、海などの自然環境を持続的に保全し、無秩序な開発を防止するための取り組みが必要である。

2) 緑を活かした子育て環境の充実（緑の活用）

保全される自然環境を次世代へ伝え、持続可能な自然あふれる地域を形成していくためにも、緑を活かした子育て環境の充実が大切である。

3) 町民参加による花と緑のまちづくり（緑の育成）

持続可能で緑豊かな町であるため、町民による各家のガーデニングや花と緑のまちづくり活動、公園運営など、多くの町民が参加できる仕組みが重要である。

(3) 緑の役割別の方針

1) 環境保全（生物多様性の保全、海辺の環境保全）

海と山の自然のある暮らしは、高浜の生活環境に不可欠であることから、環境保全に取り組む必要がある。

- ・ 若狭湾国定公園の自然環境保全
- ・ コンパクトな土地利用の推進及び無秩序な開発の防止
- ・ 農地、魚付保安林、青葉山麓の環境保全
- ・ 海洋プラスチックゴミ削減等の海の環境活動

2) 防災（災害時の避難地・避難路、防災のための緑の確保）

近年は100年に1度、50年に1度の自然災害が恒常化しつつあり、より一層の防災意識の向上が必要である。

- ・ 木造密集市街地での防災道路や防災広場等の確保
- ・ 防火、防風林、調整池等の保全及び整備
- ・ 避難場所となる公園等のバリアフリー化、防災・避難機能の強化

3) 景観（景観形成、快適な生活環境の創出）

青葉山などの自然シンボルを身近に感じる生活を送り、地域固有の町並みや住民主体の活動が継承されていく必要がある。

- ・高浜固有の景観を形成する青葉山の視点場の保全
- ・丹後街道、民宿群等の街並み保全
- ・住民主体の花と緑のまちづくり活動の推進

4) 健康・レクリエーション（健康・スポーツ、レクリエーション・散策）

高齢者も活躍できる健康のまちづくりを推進し、だれもが健康でのびのびとスポーツやレクリエーション、散策やウォーキングを楽しめる憩いの場づくりを進め、元気な地域づくりを目指す。

- ・健康づくり、スポーツ、散策、ウォーキング等を通じた町民生活の充実
- ・点在する公園、緑地、施設のバリアフリー化およびネットワーク化
- ・老朽化した施設のリニューアルおよび適正な集約と維持管理

5) 子育て（子育て世帯利用・遊び場）

住民との共創を基本とし、公園をハブとした学校、公民館、児童館等と海や山、田畑等の自然とのネットワーク化を目指す。

- ・公園をハブとした子育て施設と自然のネットワーク化
- ・安全で快適な遊具等が配置された公園の整備
- ・子育て世帯を巻き込んだパークイベント（マネジメント）の実施



(4) 基幹となる公園の配置

今後 10 年以上すべての地区で人口減少が予測される中、子育て世帯の数も減り、現在ある公園や子どもの集まる施設を集約していく必要がある。それに伴い機能していない公園や子どものいない地区では、地域住民の意向を確認し、公園の廃止と統合を進めていく。地域住民から要望のある場所は、地域住民が主体的に管理・活用していくための維持管理体制への移管を検討していく。

方針1： 基幹となる公園を配置

- 高浜地区：園部の新しい高浜保育所に隣接し、子育て世代の利用を目的とした街区公園を整備する
- 和田地区：和田公民館周辺を子どもたちが集まれるエリアとし、街区公園を整備する
- 青郷地区：池田山公園を基幹となる公園として位置づけ、環境整備に取り組む
- 内浦地区：内浦公民館周辺を子どもが集まれるエリアとし、環境整備に取り組む

方針2： 基幹となる公園への集約化と機能しない公園の廃止

- ・都市計画区域内（高浜地区・和田地区）を中心に、機能しない公園を廃止
- ・新規に整備する基幹となる街区公園へ機能を統合
- ・地域要望のある場所は、地域住民が主体的に管理活用できることを基本に検討する



(5) 基幹公園とつながる緑地・広場の配置

基幹公園とつながる緑地や広場は、次の方針に基づき配置する。

【農林用地】

- ・高浜町にとって市街地と隣接する農業振興地域等の農用地は、重要なまちの緑である。また、高浜町の景観を形成するランドマークとなることから、その保全を図る必要がある。
- ・市街地周辺の里山、山間の緑地は、原風景となる景観資源であり、集落景観との調和に配慮しながら保全していく必要がある。

【住宅地】

- ・花と緑を感じられる住環境づくりを進めていくためには、積極的に各住宅、アパート等で緑化を推進していく必要がある。
- ・また、近年取り組まれるプランター緑化やオープンガーデンの試みなど、住民主体による花と緑のまちづくりを積極的に進めていくことが大切である。

【工場・商業施設・店舗・オフィス等】

- ・敷地面積の大きな工場やまちなかに立地する商業施設、店舗やオフィスも高浜町の重要な構成要素であり、持続的で豊かな自然を感じる場所となるためには、積極的な民間緑化への参画が欠かせない。
- ・特に、国道沿いや市街地エリアにおいては、民間緑化を推進し、潤いのある街並み形成を進めていく。

【土地区画整理等で整備された身近な広場・公園】

- ・土地区画整理事業や宅地開発によって整備される公園・緑地については、周辺部において都市公園の誘致圏域がカバーされていない地区を補完する身近な緑地として位置付け、それぞれの地域特性に応じた利活用を図る。
- ・また、都市公園以外の公園・緑地については、地域住民の身近な緑地であり、地域住民のニーズに合った利用が図れるよう地域と協議し、維持管理等の地域への移管を含め検討する。

【学校・社会教育施設】

- ・各地区の小中学校は、地域内で毎日のように子ども達が利用する場所であり、緑地である。特に国道 27 号以外に街路樹もほとんどみられない高浜町では、学校施設の街路樹や緑地は、身近にある重要な自然であり、継続的な緑化の推進を進める必要がある。
- ・公民館、文化会館、体育館、中央球場などの社会教育施設は、まちなかの貴重な公共空間として利用されており、重要な避難場所としても指定されていることから、防災緑地や緑のネットワークの基点として、緑の配置を進めていく必要がある。
- ・公民館等は、散水設備も設置しやすいことから、地域住民と協働した花と緑のまち

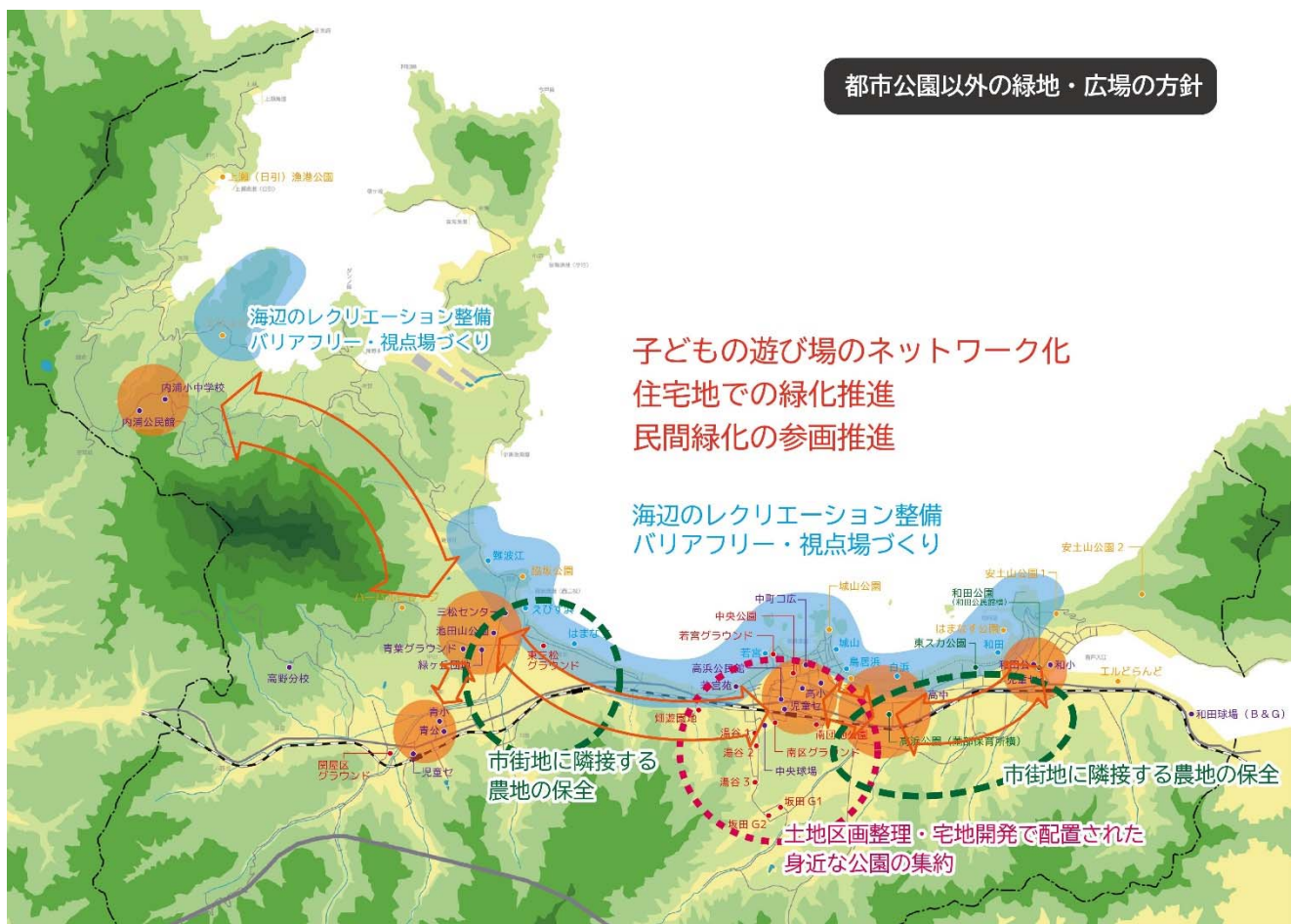
づくり活動の場として、活用していくことが大切である。

【子育て世代包括支援センター・児童センター・児童館】

- ・就学前の子ども達が集まる子育て世代包括支援センターを基点に、子どもの集まる公園、公民館、小学校、保育所、ビーチなどが、花と緑のネットワークでつながるように配置計画を検討し、整備を進めていく。
- ・児童館や児童センターは、放課後や休日に子どもの遊び場となっている。一方、安全な遊び場の確保という課題や施設の老朽化も進んでいる。そのため、敷地の拡張性や地域内の他の公共スペースと連携を検討し、地域交流の場となるよう計画的に移行、再整備を進めていく。

【観光関連施設】

- ・海水浴場や城山公園など、観光利用者が多く訪れる公園や緑地は、高浜町固有の自然や歴史を有するものも多い。そのため、自然・歴史資源の継承地としての環境整備に取り組むとともに、町内外からの来訪者のレクリエーションの拠点となるよう取り組んでいく。
- ・海に面した高浜町では、トイレやバリアフリーなどのビーチアメニティの向上を図るなど、海辺のレクリエーション機能の充実を進める。
- ・景勝地や視点場となる場所では、地域の自然や歴史を体験できる休憩施設や視点場の整備を進める。また、点在する観光緑地や自然を誘導するための案内板などの受け入れ環境を整える。



(6) SDGs とランドスケープデザイン

1)SDGs とは

SDGs とは、平成 27 年（2015 年）9 月に国連サミットで採択された“**Sustainable Development Goals=持続可能な開発目標**”のこと。揚げられた 17 のゴールは、2030 年までに達成を目指そうとする、世界共通の目標。世の中で起きている貧困や飢餓、テロや紛争、社会的格差、気候変動など、さまざまな問題を背景に、このままでは地球がもたないという強い危機感の中から誕生したものである。

内容は、おもに**経済、社会、環境**という 3 つの側面を統合的に捉えたもので、「誰も置き去りにしない」**社会の実現**である。例えば、「経済」なら、どのように成長させ技術革新していくのか、「社会」なら子どもたちのために質の高い教育を充実させていくのか、「環境」なら海の環境を守ることやエネルギーの使い方が課題となる。

2030 年、自分や社会はどうなっているのか想像してみる。SDGs とは、何かを知ることともまた大切なアクションである。



<17 のゴール>

1.貧困をなくそう／2.飢餓をゼロに／3.すべての人に健康と福祉を／4.質の高い教育をみんなに／5.ジェンダー平等を実現しよう／6.安全な水とトイレを世界中に／7.エネルギーをみんなにそしてクリーンに／8.働きがいも経済成長も／9.産業と技術革新の基盤をつくろう／10.人や国の不平等をなくそう／11.住み続けられるまちづくりを／12.つくる責任つかう責任／13.気候変動に具体的な対策を／14.海の豊かさを守ろう／15.陸の豊かさを守ろう／16.平和と公正をすべての人に／17.パートナーシップで目標を達成しよう

以下、SDGs との関係も含め記載していく。

2) パークマネジメントの導入



公園という公共空間も作って終わりという時代ではなく、完成後の運営を工夫する動きが全国で広がっている。例えば、小さな地区にあるような小さな広場では、近隣住

民が企画・造成・運営を行うような遊び場づくりが実施されている。また、公園・キャンプ場・総合公園等の指定管理やパーク内イベント等のソフトの運営を民間事業者やNPO等へ委託するなど、多様な主体を巻き込んだ様々なパークマネジメントが実施されている。

実は、高浜町でもこのパークマネジメントといえる活動がしっかりと根付いている。例えば、ビーチを公共のオープンスペースと考えると、浜のゴミ拾いや砂防ネット張りは、まさにパークマネジメント活動といえる。和田地区では、この砂浜のパークマネジメントを拡大した結果、国際環境認証ブルーフラッグを取得できたといえるだろう。

また、平成30年より始まった個人の庭を公開するオープンガーデンの取り組みも、ネットワーク型のパークマネジメントといえることができる。個人の庭をオープン（公共化）し、それらをオープンガーデンとしてネットワーク（マネジメント）することで、生活の質を高めている素敵な取り組みである。

3) GREEN コンパクトシティの推進

（スマートタウン、生活再建、二次交通、ICT・IoT、健康、まちづくり）



次ページの「24 の緑のクラスター」とは、現在ある高浜町の緑の重要な資源を分類したものである。この24のクラスターを保全・活用し、防災機能を維持していくとともに、ネットワーク化することで新たな価値を創出することも重要な視点である。また、人口減少社会に突入している現在では、歩いて暮らせるコンパクトな市街地形成を進めるとともに、空き家や空地、耕作放棄地、低未利用地をマネジメントし、活用することが求められている。

その課題解決のため、SDGsな視点を積極的に取り入れる必要があり、加えてAIやICT・IoTなどの情報産業を積極的に取り入れることが大切である。そして、24 の緑のクラスターを持続的に保全・活用したコンパクトな市街地形成「GREEN コンパクトシティ」へステップアップし、緑豊かなコンパクトなまちなか“スマートタウン”で、高齢者の生活再建、スマートな二次交通（グリーンスローモビリティ等）、健康な生活と自由で豊かな遊び場など、公園や緑地と市街地が持続的な関係を構築できる共創の取り組みが大切である。

高浜町 24の緑のタイプ群（クラスター）

	大分類	小分類	主な緑地
1	森林	-	青葉山、妙見山、安土山、林道
2	里山	-	青葉山麓の集落等
3	河川	-	関屋川、子生川、笠原川
4	海岸・砂浜	-	音海大断崖、8つの海水浴場（若狭和田・白浜・鳥居浜・城山・若宮・はまなすパーク・えびす浜・難波江）
5	前庭 （はじめに触れる緑等）	1）駅前広場	若狭高浜駅前広場、若狭和田駅前
6		2）街路樹	桜並木（役場横、妙見山、中山観音寺線）
7		3）生垣	和田1区～3区、菌部、東三松など
8	中庭 （住民利用が主体のもの）	1）地区の広場	宅地造成などに伴い造られた各区の公園・広場（南団地、湯谷、坂田）、町営住宅の広場
9		2）児童センター・児童遊園	高浜・和田・青郷児童センター
10		3）ゲートボール場	若宮グラウンド、東三松グラウンドなど
11	庭園 （町内外の多くの人々が利用するもの）	1）都市公園等	東スカ公園、基幹公園
12		2）キャンプ場	若狭和田・五色山ほか
13		3）イベント広場	城山公園、脇坂公園
14		4）観光広場・花の名所	城山公園、安土山公園、五色山公園、ハーバルビレッジ、横津海の芝桜、馬居寺の紅葉
15		5）海水浴場	8つの海水浴場（若狭和田・白浜・鳥居浜・城山・若宮・はまなすパーク・えびす浜・難波江）
16		6）河川敷	関屋川、子生川
17	寺社	（目印の大木・鎮守の森）	杉森神社のオハツキイチョウ、青海神社のケヤキ、大成寺の紅梅・マキ、佐伎治神社のモミ・カシ、正善寺のサルスベリ、新宮神社のイチョウ・ムクロジ、今寺のイチョウ、小和田のナナモリ、高野のモリなど
18	グラウンド・体育施設	1）グラウンド・スポーツ施設・体育館	青葉ドーム、中央球場、青葉球場、B&G、中央体育館、西地区体育館など
19		2）レクリエーション施設	池田山公園、エルどらんど
20		3）公民館	高浜公民館、和田公民館、青郷公民館、内浦公民館
21		4）小中学校・保育所・児童館	高浜中学校、内浦小中学校、各小学校、各保育所、児童館
22	農地	1）田畑・果樹園	和田、菌部、子生、東三松、小和田等
23		2）貸し農園	保育所農園など
24		3）体験農園	いちご農園、ビオトープなど